


【簡潔版年表】：第一次世界大戦の動きとインフルエンザの広がり

	ヨーロッパでの動き	アメリカの動き	フィラデルフィアの動き	
1914	6/28	サラエヴォ事件 南米でドイツ海軍敗北 →イギリスの海上封鎖開始		
	5/7	ルシタニア号事件 →アメリカ民間人に被害		
1916	5/31~6/1	ユトランド沖海戦 →海上封鎖破れず		
1917	1/31	ドイツの無制限潜水艦作戦宣言		
	3/8	ロシア二月革命		
	4/6		アメリカがドイツに宣戦布告	
	4/13		戦時広報委員会創設→後にスパイ法など。言論統制	
	11/7	ロシア十月革命 →ソヴィエト政権の成立		
1918	1/8		ウィルソンが「十四か条の平和原則」発表	
	1月後半~2月初旬		カンザス州ハスケル郡で「重症型インフルエンザ」確認	
	3/3	ブレスト=リトフスク条約調印 →ドイツとソヴィエト政権が講和。東部戦線の兵士が西部戦線へ		
	8/1		数千人規模でフランスへ看護師を派遣	
	8/8	「暗黒の木曜日」。2万人のドイツ兵が捕虜に。		
	8/20	イギリス本土でインフルエンザの終息を宣言	インフルエンザがニューヨークで発生したと宣言 →9/15にはニューヨークで初めての死者	
	8/29		ボストンの58人の水兵が入院。	
	9/7			水兵300人がボストンからフィラデルフィアの海軍基地へ到着 →インフルエンザが流行し、600人が入院
	9/18			戦争遂行の妨げにならぬよう、人前で咳をしたり、くしゃみをしたたり痰や唾を吐いたりしないように呼びかけるキャンペーンを始めた
	9/21		・キャンプを中心に各地で入院患者の増加。死者も発生。 ・サンフランシスコでは患者発生前に全港施設の検疫を行い、支援体制を整え、公共の場所を閉鎖。	市の保険局はインフルエンザを届出伝染病に指定
	9/22		・アメリカのフェニックスで、「ボストン衛生局のW・C・ウッドワード医師が今晚、楽観的な態度を表明した。ウッドワード医師は現在患者数は増加しているが心配することはないと述べた」と報じた	
	9/26		憲兵隊長が14万2000人の徴兵招集を延期	
	9/27		ウィスコンシン州でインフルエンザの真相を報じると、「士気を低下させる」と批判される	新たに200人がインフルエンザで市内病院で入院
	9/28			購買運動開始の祝賀パレード開始
	9/29	ブルガリアが停戦条約に調印	アメリカ軍内で、インフルエンザの感染している部隊を海外に出すべきでないという意見が出てきた。	
	9/30			クルーゼン博士が、インフルエンザの流行を発表市内31病院すべてのベッドが塞がる
	10/1			一般市民より新たに635人の患者。117人が死亡。
	10/3			市当局が全ての学校、教会、劇場その他大衆娯楽施設の閉鎖命令を下す
	10/4		・キャンプ・グラントでの一日の死者が初めて100人を超す。間もなく一日で1810人が病気を申告し、死者数も伸び続ける ・ニューヨーク州ブロンクスビルの新報が初めてインフルエンザについて報道。「天罰」が最初の犠牲者に下った、そして「恐怖は病気よりも多くの人を死に陥れる。弱音を吐く者や臆病者が最初に犠牲者となる」と警告した。	
	10/5			254人がインフルエンザで死亡。新聞は、公衆衛生当局の言葉を引用し「インフルエンザの大流行はピークに達した」と報道。
	10/6			289人がインフルエンザで死亡。新聞は「流行は過ぎ去ったと確信していると、衛生当局は自信を見せる」と報道
	10/8			クルーゼン博士がフィラデルフィアでの流行は山場を越えたと発表
	10/10			インフルエンザ及び肺炎で一日759人の死亡を記録
	10/16			711人の市民の死亡報告
	10/17			市の資産家より、フィラデルフィアの公債購買成績が他の都市より劣っていることに対して不満を表明
	10/22		新聞の一ページ広告で「マスクをかけて命を守ろう。これがあればインフルエンザを99%防げる」と呼び掛け	
10/25			市の国防委員会が発注していた標準的な仕様の棺700、松材を使った箱タイプの棺1500が完成	
10/26		サンフランシスコの赤十字社はマスクを10万個市民に配った		
10/27~10/30			市の保健局は、教会における集団礼拝禁止命令を解除。順次、学校、劇場、サロンなども再開	
11/3	キール軍港の反乱→ドイツ革命			
11/11	ドイツ降伏		戦争が終結し、お祭り大騒ぎ	

※  は、フィラデルフィアに入るまでのインフルエンザの経路（アメリカのカンザス州→ヨーロッパ→ニューヨーク→ボストン→フィラデルフィア）